

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア II 講座・准教授
氏名 Name	井上さゆり
専門分野 Academic Field	ビルマ古典音楽・古典文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ビルマ古典歌謡におけるジャンル形成過程
<p>本研究の目的は、ビルマ古典歌謡における伝承と創作の過程を明らかにすることである。書承と口承で音楽が伝承される過程及び創作が為される過程を明らかにすることを目的とし、研究計画に従い以下の作業を行った。</p> <p>(1) 貝葉写本における歌謡集における伝承の内容の分析。(2) 1930-80年代のビルマ語音楽雑誌を分析し、この時期に「古典歌謡」の枠組みが作られ、実体化していった過程の解明。以上の(1)、(2)の成果として、国際学会 International Burma Studies Conference (シンガポール、2014年8月1日)において“Interpreting Burmese Music from the 1920s to the 1990s”のタイトルで口頭発表を行った。さらに、論文“Written and Oral Transmission of Burmese Classical Songs” (『上智アジア学』第32号2014年, pp. 41-55) を発表した。平成26~29年度科研費基盤(C)の計画に従い、9月に現地調査を実施し、(3) マンダレーのドー・キンメイに古典歌謡の教授を受けるとともに、古典歌謡の教授実態について記録(録音、録画)を行った。同時に彼女の夫の故ウー・ミンマウン氏作成の莫大な数の手書きの楽譜の記録撮影を昨年度に引き続き進め、同一曲のヴァリエーションの整理を進めた。以上の研究成果は上記論文の後半部に反映させた。同調査時の9月5日のウー・ミンマウンの命日に、ビルマを代表する音楽家達が集って開催される演奏会に、報告者も竖琴演奏で参加した。また、ヤンゴン国立文化芸術大学を訪れディプロマコースの論文発表会に参加し最近の研究成果について調査を行い、報告者が同大学図書館に寄贈した著書 <i>The Formation of Genre in Burmese Classical Songs</i> (2014, 大阪大学出版会) について音楽学部の教員らと議論を行った。ヤンゴン文化大学非常勤教授ウー・トゥンキン氏、元国立図書館長のウー・キンマウンティン、文学研究者のウー・ミンチイらにも同著書を寄贈し、コメントを頂いた。</p> <p>ウー・ミンマウンの撮影済みの手書き楽譜画像の編集作業を昨年に続き進め、加えて、(4) デジタル化を進めているアナログ音源の作業を進めた。</p> <p>みんぱく共同研究「東南アジアのポピュラーカルチャー」の共同研究員として参加し、口頭発表「ビルマの近現代歌謡と現代の演奏」(2014年10月11日)を行った。その他、「ビルマの竖琴と北タイ音楽のタベ」(京都文教大学ぶんきょうサテキャン宇治橋通り、2014年6月12日)において講演・竖琴演奏、CD「Beauty of Tradition ミャンマーの伝統音楽、その深淵への旅」(Airplane Label、2014年)ライナーノーツの執筆、「日本ミャンマー平和条約60周年記念ミャンマー平和の光彩：ミャンマー国立芸術団演奏会」2014年のパンフレットに演目解説とコラム「ミャンマーの魅力と今」の執筆を行った。</p>	